

〔登米総合産業高等学校 シラバス様式〕

教科	福祉		科目	介護総合演習	
履修学年	1年	学科	福祉科	使用教科書	なし
単位数	1	必修・選択の別	必修	副教材等	中央法規 新介護福祉士養成講座 第10巻介護総合演習・介護実習 介護実習で困らないためのQ&A
授業形態	一斉授業				
科目の目標	○介護演習や事例研究などの学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図る。 ○課題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。				
生徒に付けさせたい力	○介護実習の事前・事後指導を通して、総合的な学習を行うことで、介護実習を円滑に進め、介護実習の課題や成果を明確にする。				
学習の評価	観点	規 準			
	関心・意欲・態度	課題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身につけている。			
	思考・判断・表現	介護演習や事例研究などの学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図っている。			
	技能				
知識・理解	介護演習や事例研究などの学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図っている。				
評価方法	○授業への取り組み(出席/授業態度) ○提出物 ○テスト(実技テスト/小テスト)				
関連資格等	介護福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目				
学習の計画	単 元 名		学 習 内 容		
前 期	第1回 第1章 介護総合演習で何を学ぶか 1 介護総合演習の位置づけ 2 介護総合演習の目的 第2章 介護実習で何を学ぶか 1 介護実習の意義と目的 2 介護実習事前学習	<ul style="list-style-type: none"> 福祉科の教育課程及び介護福祉士の養成課程について理解する。 教育課程の中の介護実習の位置付について理解する。 介護実習と介護総合演習との関係について理解する。 介護実習の意義と目的について理解する 介護実習の事前学習として何を学ぶかを考察する。 			
	第2回 第4章 実習先の特徴と学ぶべきポイント 1 通所介護 2 訪問介護 <施設見学実習> ・高齢者福祉施設見学 <介護実習 I > 通所介護事業所 7日間 訪問介護事業所 2日間 3 介護実習事後学習 <実習成果発表会①> ・クラス内発表 ・実習指導者を招いての成果発表	<ul style="list-style-type: none"> 実習施設の特徴と各段階での介護実習の内容を理解する。 介護実習を振り返り課題や成果を明確にする。 自己の介護観を確立させ、今後に活かす。 他の実習先での内容や課題を共有する。 			
後 期	第3回 第4章 実習先の特徴と学ぶべきポイント 1 グループホーム 2 介護実習事前学習 <介護実習 I > 認知症グループホーム 2日間 3 介護実習事後学習	<ul style="list-style-type: none"> 実習施設の特徴と各段階での介護実習の内容を理解する。 介護実習を振り返り課題や成果を明確にする。 			

〔登米総合産業高等学校 シラバス様式〕

で	<実習成果発表会②> ・クラス内発表	・他の実習先での内容や課題を共有する。
第4回 回 考 査 ま で	第5章 介護実習Ⅰの展開 1 介護実習事前学習 <介護実習Ⅰ> 通所介護事業所 6日間 2 介護実習事後学習 <実習成果発表会③> ・クラス内発表 ・学科内成果発表会	・実習施設の特徴と各段階での介護実習の内容を理解する。 ・自己の介護観を確立させ、今後に活かす。 ・他の実習先での内容や課題を共有する。

教科	福祉		科目	介護実習
履修学年	1年	学科	福祉科	使用教科書
単位数	4	必修・選択の別	必修	副教材等
				中央法規 新介護福祉士養成講座 第10巻介護総合演習・介護実習 介護実習で困らないためのQ&A

授業形態	一斉授業（各実習施設にて集中実習）		
科目の目標	○利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認等を行う。		
生徒に付けさせたい力	実習Ⅰ 多様な介護現場における実習 ○様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解した上で、個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。		
学習の評価	観 点	規 準	
	関心・意欲・態度	利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認等を行う態度を身につけている。	
	思考・判断・表現	多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解している。	
	技能	利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、多職種協働の実践、介護技術の確認を行っている。	
	知識・理解	様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解した上で、個別ケアを理解し、多職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解している。	
評価方法	○実習への取り組み(出席/意欲・態度) ○日誌等の提出物 ○実習指導者からの評価と実習指導担当教員からの評価等を総合して評価する		
関連資格等	介護福祉士国家試験受験資格取得のための必修科		
学習の計画	実習施設・期間	各実習のねらい	
前期	第2回 考 査 ま で	<施設見学実習> 介護老人保健施設等 4時間 <介護実習Ⅰ> 通所介護事業所 7日間 訪問介護事業所 2日間	<施設見学実習> (1)高齢者福祉施設について理解する (2)実習施設とその種類について理解する <介護実習Ⅰ>通所介護事業所 (1)オリエンテーション (2)利用者の理解

[登米総合産業高等学校 シラバス様式]

			<p>(3)コミュニケーションの実践 (4)介護職員の業務内容の理解と体験 (5)個々の利用者の生活の理解 (6)信頼関係を築くコミュニケーションの実践 (7)介護職員の業務内容の理解と体験</p> <p><介護実習 I>訪問介護事業所 (1)オリエンテーション (2)同行訪問 ◎利用者の承諾を得た家庭を訪問する ◎1年次は「高齢者」を中心とした実習とする</p>
後 期	第3 回 考 査 ま で	<介護実習 I> 認知症グループホーム 2日間	<p><介護実習 I>認知症グループホーム (1)オリエンテーション (2)認知症高齢者の理解 (3)コミュニケーションの実践 (4)介護職員の業務内容の理解と体験 (5)認知症高齢者の理解 (6)コミュニケーションの実践 (7)介護職員の業務内容の理解と体験</p>
	第4 回 考 査 ま で	<介護実習 I> 通所介護事業所 6日間	<p><介護実習 I>通所介護実習 (1)介護保険における通所介護及び通所リハビリの理解 (2)個々の利用者の生活と要介護度,障害の程度の観察と理解 (3)レクリエーションの企画 (4)介護職員の業務内容の理解と体験 (5)個々の利用者の生活と要介護度,障害の程度の観察と理解 (6)レクリエーションの企画と実施 (7)介護職員の業務内容の理解と体験</p>

〔登米総合産業高等学校 シラバス様式〕

教科	福祉		科目	生活支援技術
履修学年	1年	学科	福祉科	使用教科書 7 実教 福祉 303 生活支援技術
単位数	3	必修・選択の別	必修	副教材等 中央法規 新介護福祉士養成講座 第6巻生活支援技術Ⅰ 第7巻生活支援技術Ⅱ

授業形態	一斉授業	
科目の目標	○自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解する。 ○基礎的な介護の知識と技術を習得する。 ○様々な介護場面において適切かつ安全に支援できる能力と態度を養う。	
生徒に付けさせたい力	○自立を支援する介護のあり方に関心、意欲を持って学び、加えて知識の定着と技術の向上を目指すことができる。 ○介護を実践していく上でその望ましい方法を利用者視点で考え表現できる。 ○基礎的な介護の知識のもと、利用者の生活状況を的確に把握し自立と安全を重視した活動を実践できる。 ○基礎的な介護のあり方、介護実践の根拠となる人体の構造や機能について理解できる知識として身に付けている。	
学習の評価	観 点	規 準
	関心・意欲・態度	自立を支援する介護のあり方に関心、意欲を持って学び、加えて知識の定着と技術の向上を目指す態度を身に付けている。
	思考・判断・表現	介護を実践していく上でその望ましい方法を利用者視点で考え表現する能力を身に付けている。
	技能	基礎的な介護の知識のもと、利用者の生活状況を的確に把握し自立と安全を重視した活動を実践していく能力を身に付けている。
	知識・理解	基礎的な介護のあり方、介護実践の根拠となる人体の構造や機能について理解し知識として身に付けている。
評価方法	○授業への取り組み(出席/授業態度) ○提出物 ○テスト(実技テスト/小テスト) ○定期考査	
関連資格等	介護福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目	
学習の計画	単 元 名	学 習 内 容
前 期	第1回 第1編 私たちの暮らしと生活支援 第1章 生活支援の理解 1 生活に視点を置く 2 生活支援の考え方 3 他の職種の役割と協働	・生活とは何か、その定義について理解した上で要介護者や家族の生活を重視した介護のあり方を考察する。 ・個人の尊厳とは何か、それらが持つ価値について理解し、高齢者や障害者に対する自立生活支援のあり方を考察する。 ・多職種連携と他職種連携の違いを理解した上で、介護の現場に求められるチームアプローチのあり方を考察する。
	第2回 第2章 生活支援に向けたアセスメント 1 生活支援におけるアセスメント 2 ICFの視点とアセスメント	・介護過程の中でアセスメントが持つ意義、役割について理解し、利用者及びその家族が抱えるニーズの把握に向けたかかわり方を考察する。 ・ICFを活用したアセスメントの方法を詳しく考察する。
後	第3回 第2編 自立に向けた生活支援技術	

〔登米総合産業高等学校 シラバス様式〕

期	回 考 査 ま で	<p>第1章 居住環境の整備</p> <p>1 生活支援における居住環境整備の意義・基本理念</p> <p>2 安心して快適な生活の場づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・居住環境整備の意義、目的ならびにバリアフリー、ユニバーサルデザインの考えに基づいた居住環境について理解し、ICFの視点を活かした望ましい居住環境整備のあり方を考察する。 ・住宅、施設、グループホーム、ユニットケアといった生活空間の特徴について理解し、利用者の安心して快適な生活の構築に向けたその手法を習得する。
	第4回 考 査 ま で	<p>第2章 家事の介護</p> <p>1 家事の支援の意義と目的</p> <p>2 家事支援における介護技術</p> <p>第3章 身じたくの介護</p> <p>1 身じたくの意義と目的</p> <p>2 身じたくにおける介護技術</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家事の介護に関する意義、目的を理解し、利用者本位によるICFの視点を活かした望ましい支援のあり方を考察する。 ・利用者の心身の状態および生活の状況に応じた家事の介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・身じたくの介護に関する意義、目的を理解し、その人らしさの表現とともにICFの視点を活かした望ましい介護のあり方を考察する。 ・利用者の心身の状態および生活の状況に応じた整容、口腔ケア、衣類の着脱を学ぶことで身じたくの介護に関する基礎的な知識と技術を習得する。

教 科	福 祉			科 目	こころとからだの理解
履修学年	1年	学 科	福祉科	使用教科書	7 実教 福祉304 こころとからだの理解
単位数	2	必修・選択の別	必 修	副教材等	中央法規 新介護福祉士養成講座 第14巻こころとからだのしくみ

授業形態	一斉授業	
科目の 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○自立を尊重した生活を支援するために必要な、こころとからだの基礎的な知識を習得する。 ○修得した知識を、介護実践に適切に活用できる能力を身につける。 ○身に付けた知識を、自立を尊重した生活の支援に役立てることで、地域に寄与する意欲と態度を養う。 	
生徒に付け させたい力	<ul style="list-style-type: none"> ○介護に従事する者として、人間の心身の構造や機能を理解できる。 ○要介護者に対して安全で安楽な介護技術を提供することができる。 ○人間の心身に対する思考を深め、尊厳ある接し方ができる。 	
学習の評価	観 点	規 準
	関心・意欲・態度	・介護に従事する者として人間の心身に関心をもち、より安全で安楽な介護技術の提供を目指して意欲的に取り組んでいる。
	思考・判断・表現	・より安全で安楽な介護技術の提供を目指して、人間の心身に対する思考を深め、尊厳ある接し方について多面的・多角的に考察している。
	技能	・人間の心身の構造や機能を理解した上で、要介護者に対する安全、安楽な介護技術を身に付けている。
	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・要介護者に対し安全、安楽な介護技術を提供するための、人間の心身の構造や機能に関する基礎的な知識を身に付けている。 ・安全、安楽な介護技術を提供するためには、人間の心身の構造や機能を理解する必要があるということを理解している。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業への取り組み(出席/授業態度) ○提出物 	

〔登米総合産業高等学校 シラバス様式〕

		○テスト(実技テスト/小テスト) ○定期考査	
関連資格等		介護福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目	
学習の計画	単 元 名	学 習 内 容	
前 期	第1編 心とからだの基礎的理解 第3章 心のしくみの理解 1 私たちの生活と健康 2 人間の欲求の基礎的理解 3 自己概念と尊厳 4 意欲・動機づけのしくみ 5 思考・感情のしくみ 6 記憶・学習のしくみ 7 適応のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・介護従事者として必要な、基本的な心のしくみを学ぶ。 ・介護従事者として、健康をどのようにとらえるべきかを考え、自分の言葉で表現する。 ・人間の心とは何か、人間の欲求や尊厳と関連させながら考え、理解する。 ・人間の心の動きや心のしくみを、事例学習をすることにより気づき、理解する。 	
	第2回考査まで	第4章 からだのしくみの理解 1 生命維持・恒常性のしくみ 2 脳・神経系のしくみ 3 運動器系のしくみ 4 循環器系のしくみ 5 消化器系のしくみ 6 呼吸器系のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・介護従事者として必要な、基本的なからだのしくみについて学ぶ。 ・人間がどう生命を維持し、機能のバランスをとりながら生きているかを理解する。 ・それぞれのからだのしくみを理解する。 ・介護従事者として要介護者の心身的に観察し、アセスメントすることの必要性を理解する。 ・介護従事者として要介護者の心身的に観察し、アセスメントするために必要な知識を身に付ける。
後 期	第3回考査まで	7 感覚器系のしくみ 8 内分泌系のしくみ 9 泌尿器系のしくみ 10 生殖器系のしくみ 11 血液・免疫系のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのからだのしくみを理解する。 ・介護従事者として要介護者の心身的に観察し、アセスメントすることの必要性を理解する。 ・介護従事者として要介護者の心身的に観察し、アセスメントするために必要な知識を身に付ける。
	第4回考査まで	第2編 生活支援に必要な心とからだのしくみの理解 第1章 生活動作に関する心とからだのしくみ 1 身じたくに関する心とからだのしくみ 2 移動に関する心とからだのしくみ 3 食事に関する心とからだのしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援と心身の構造の関連を理解し、安全で安楽な介護技術を提供するために必要な身体各部の構造を統合させる。 ・衣服の着脱、整容、口腔の清潔を安全、安楽に支援するための、心身の構造を理解する。 ・身の回りの動作を安全、安楽に支援するための、心身の構造を理解する。 ・からだの機能低下や障害が及ぼす影響について理解し、その予防方法について考察する。 ・食事の摂取を安全、安楽に支援するための、心身の構造を理解する。 ・食べ物や水分が良好に摂取できない場合の心身の変化について理解し、その予防方法について考察する。

〔登米総合産業高等学校 シラバス様式〕

教科	福祉		科目	社会福祉基礎
履修学年	1	学科	福祉	7実教 社会福祉基礎 福祉301
単位数	2	必修・選択の別	必修	実教 社会福祉基礎学習ノート
授業形態	一斉授業			
科目の目標	1 社会福祉に関する基礎的な知識と技術を習得し、社会構造の変容やライフスタイルの変化が社会福祉の進展にどのような影響を及ぼしているか考える力を身に付ける。 2 現代社会における社会福祉の意義や役割などについて理解し、社会福祉の基本的な見方や考える力を身に付ける。 3 対人援助のあり方や社会福祉制度の基礎的な理解のもと、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決し、社会福祉の向上を図る能力と態度を身に付ける。			
生徒に付けさせたい力	・社会構造の変容や人々のライフスタイルの変化が社会福祉の進展にどのように影響を及ぼしたのかを知ることができる。 ・人間の尊厳について学習することで福祉を必要としている人々にどのような援助や関わりが必要となるかを知ることができる。 ・福祉とは、国民が健やかに生活を送るために必要不可欠なものであることを再認識することができる。			
学習の評価	観点	規 準		
	関心・意欲・態度	社会福祉に対する関心を高め、福祉社会が抱える課題に意欲を持って目を向けるとともに、社会福祉の向上を図る創造的、実践的な態度を身に付けている。		
	思考・判断・表現	社会構造の変容、ライフスタイルの変化がどのように社会福祉の進展に影響し、そこから派生する諸課題の解決に向け、創意あふれる考えを導き出し表現する能力を身に付けている。		
	技能	社会構造の変容及びライフスタイルの変化と社会福祉の理念について資料、情報を適切に活用し、調査研究の場で的確にまとめる技術を身に付けている。		
	知識・理解	自立生活支援や社会福祉の考え方を把握し、社会福祉に関する基礎的な知識を身に付けるとともに現代社会と社会福祉の関連性、社会福祉の理念と意義・役割を理解している。		
評価方法	考查点 7(6)割 平常点 3(4)割 (出欠・授業態度・課題等の提出物)			
関連資格等	介護福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目			
学習の計画	単 元 名		学 習 内 容	
前 期	第1回 考查 まで	「社会福祉基礎」とは 第1編 社会福祉の理念と意義 第1章 生活と福祉 第2章 社会福祉の理念 第3章 人間の尊厳と 社会福祉の創造	・「社会福祉基礎」での学びについて知る ・少子高齢化や人口減少社会における様々なライフスタイルの変化や地域社会の変化から社会福祉が担う役割を学ぶ。 ・日本国憲法第13条や第25条の意義や社会福祉の理念を学ぶことでノーマライゼーションのあり方を考える。 ・「人間の尊厳」について理解を深め、福祉サービス利用者に対する支援のあり方を考えると共に、自立生活支援の必要性に気づく。また、福祉社会の形成には福祉コミュニティや共生社会作りが必要不可欠であることを学ぶ。	
	第2回 考查 まで	第2編 社会福祉の歴史と 福祉社会の課題 第1章 諸外国における 福祉社会	・諸外国における社会福祉の発展や、それぞれの国の施策が日本に与えた影響について歴史的背景から学習する。また、福祉国家成立までの歩みや障害者福祉についても学習する。	

〔登米総合産業高等学校 シラバス様式〕

		第2章 日本における社会福祉	・日本における社会福祉の先覚者達の取り組みを理解すると共に「地域福祉」のはじまりや福祉三法の成立等、時代の変化によって様々な福祉改革が行われてきたこと、私達の生活はそれらの改革によって確立されてきたことを知る。
後 期	第3 回 考 査 ま で	第3編 生活を支える社会福祉・ 社会保障制度 第1章 社会福祉・社会保障制度 の意義と役割 第2章 子ども家庭福祉	・社会保障制度の意義や役割等について理解すると共に、時代の変化に伴って求められる社会福祉のあり方について学習する。また、社会福祉と行政との関わりについても学ぶ。 ・児童福祉政策の基軸でもある児童福祉法について理解すると共に今後の子育て支援のあり方について学習する。更に、子育て環境の多様化やニーズへの対応を目指した制度の仕組みを理解することで、障害のある子に対する児童福祉や母子保健等、個々に応じた支援についても学習する。
	第4 回 考 査 ま で	第3章 障害者福祉	・ノーマライゼーション思想や自立生活運動が障害に対する考えに与えた影響を理解すると共に、障害者福祉の意義について学習する。 ・各障害（身体・知的・精神等）者の日常生活や社会生活の中で直面する課題について学習する。 ・各障害（身体・知的・精神等）者に対する制度上の支援の仕組みや現状を理解する。 ・障害者自立支援法が定める目的や障害者福祉サービスの体系、具体的な利用の手続き方法について理解する。 ・障害者福祉の今後のあり方について就労支援、地域移行の推進、スポーツや文化活動等の側面から学習する。

教科	福祉			科目	介護福祉基礎
履修学年	1	学科	福祉	使用教科書	7実教 介護福祉基礎 福祉302 介護福祉基礎
単位数	3	必修・選択の別	必修	副教材等	実教 介護福祉基礎学習ノート

授業形態	一斉授業	
科目の 目標	介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護の意義と役割を理解し、介護を適切に行う能力と態度を身に付ける。	
生徒に付け させたい力	<ul style="list-style-type: none"> ・「人間の尊厳」について理解し、介護を必要とする方々への関わり方や支援の仕方を知ることができる。 ・自立支援等、介護の意義と役割を理解し、介護を適切に行う能力と態度を身につけることができる。 ・ICFの考えに基づき、その方の生活をイメージすることで、どのような支援が必要なのかを考えることができる。 	
学習の評価	観 点	規 準
	関心・意欲・態度	・介護に関する諸問題について関心をもち、よりよい介護を目指して意欲的に取り組むとともに創造的、実践的な態度を身に付けている。
	思考・判断・表現	・介護に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、介護活動の現状について多面的・多角的に考察している。 ・介護活動を計画し、実際に援助することができる。
	技能	・高齢者や障害者に対する基礎的・基本的な介護技術を身に付けている。
	知識・理解	・高齢者や障害者に対して介護に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、介護の意義や役割を理解している。
評価方法	考查点7(6)割	

〔登米総合産業高等学校 シラバス様式〕

		平常点3(4)割(出欠・授業態度・課題等の提出物)	
関連資格等		介護福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目	
学習の計画		単 元 名	学 習 内 容
前 期	第1 回 考 査 ま で	「介護福祉基礎」とは 第1編 介護の意義と役割 第1章 尊厳を支える介護 第2章 介護従事者の倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・「介護福祉基礎」での学びについて知る。 ・人間の尊厳とはどのようなことかを学び、介護を行う上での対人援助においてどのような考え方や態度が必要かを理解する 介護従事者として必要とされる倫理観の習得と、それに基づく態度について理解する。
	第2 回 考 査 ま で	第2編 介護を必要とする人の 理解と介護 第1章 高齢者の生活と介護	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢期における身体や精神の変化を理解すると共に、高齢者に対するより良い介護の仕方を学ぶ。 ・認知症等、高齢期に現れる疾患について理解する。 ・基本的な生活支援の方法や技術を習得する。 ・利用者が日常生活上抱えている諸問題を解決するために必要とされる介護過程のプロセスを理解する。
後 期	第3 回 考 査 ま で	第2編 介護を必要とする人の 理解と介護 第2章 障害者の生活と支援	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の範囲と程度を理解し、障害に対する考え方の変化や、障害者の生活環境を把握する。 ・各障害（視覚・聴覚・言語・肢体不自由・内部・知的・発達・精神）者の生活上起こっている困難への理解と、適切な支援体制について学ぶ。 ・障害を持つ人々を地域で支えるシステムについて理解すると共に生活をより良くしていくための具体的な方法について学ぶ。 ・障害者が地域において、どのような支援を受けられるのかを知ることで、障害者就労の実態を理解する。
	第4 回 考 査 ま で	第3編 介護を必要とする人の 生活環境 第1章 介護と環境 第2章 自立に向けた介護	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障害者が快適に生活を送るためにはどのような環境が必要とされるかを理解する。 ・医療と介護を関連させることでその人らしい生活を構成、実現させることが可能であることを理解する。 ・自立や生活支援をICFの視点から考え、事例をもとに生活支援の実際を理解する。 ・自立を支援するための生活環境とは何かを理解し、その具体的な方策について考察する。